

明治四十一年十月一日施行

法學會編纂



257

754

傍訓あか 新刑法註釋つま  
早あかり

附施行法。警察犯處罰令

東京行政法研究會發行

特<sup>45</sup><sub>75</sub>4

朕刑法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二十七日

遞	司	外	文	內	大	海	農	陸	內
信	法	務	部	務	藏	軍	商	軍	閣
大	大	大	大	大	大	大	大	大	總
臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	理
子	男	伯	男		男	男	子	侯	大
爵	爵	爵	爵		爵	爵	爵	爵	臣
堀	千	林	牧	原	松	齋	松	寺	西
田	家	野	野	田	藤	岡	內	園	園
正	尊	伸	正	正	康	毅	正	寺	公
養	福	董	顯	敬	久	實	毅	公	望

勅令第百六十三號  
刑法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行セシム



# 新刑法註釋目次

## 目次

第一編 總則	第一章 刑法例	一	第二章 內亂ニ關スル罪	三
第二章 刑	三	第三章 外患ニ關スル罪	四	
第三章 期間計算	八	第四章 國交ニ關スル罪	六	
第四章 刑ノ執行猶豫	九	第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪	七	
第五章 假出獄	一〇	第六章 逃走ノ罪	七	
第六章 時効	二	第七章 犯人藏匿及ビ證憑湮滅ノ罪	九	
第七章 犯罪ノ不成立及刑ノ減免	三	第八章 擾騷ノ罪	九	
第八章 未遂罪	五	第九章 放火及ビ失火ノ罪	一〇	
第九章 併合罪	五	第十章 盜水及ビ水利ニ關スル罪	三	
第十章 累犯	七	第十一章 往來ヲ妨害スル罪	四	
第十一章 共犯	九	第十二章 住居ヲ侵スル罪	六	
第十二章 酌量減輕	一〇	第十三章 秘密ヲ侵スル罪	七	
第十三章 加減例	一〇	第十四章 阿片煙ニ關スル罪	八	
第一編 罪	第一章 皇室ニ對スル罪	三		
第二章 內亂ニ關スル罪	三			
第三章 外患ニ關スル罪	四			
第四章 國交ニ關スル罪	六			
第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪	七			
第六章 逃走ノ罪	七			
第七章 犯人藏匿及ビ證憑湮滅ノ罪	九			
第八章 擾騷ノ罪	九			
第九章 放火及ビ失火ノ罪	一〇			
第十章 盜水及ビ水利ニ關スル罪	三			
第十一章 往來ヲ妨害スル罪	四			
第十二章 住居ヲ侵スル罪	六			
第十三章 秘密ヲ侵スル罪	七			
第十四章 阿片煙ニ關スル罪	八			

新 刑 法 註 釋

改正刑法へ大體ヲ二分チ一編ノ總則ニ於テハ總テノ罪ノ適用方ヲ定メ二編ノ罪ニ於テハ如何ナル行為ガ罪トナルヤ又如何ナル罰ヲ受クルヤヲ定ム

總則 刑法全體ニ通スル罰ノ適用方ノ規定ヲ揭ク

法例 ニ於テハ刑法ノ効力ト云ヒテ如何ナル土地又如何ナル人ノ罪ハ此刑法ニテ罰セラルヤヲ定ム

第一條 日本人ト外國人トニ拘ハラス帝國内ニテ犯シタル一切ノ罪ハ勿論假令帝國外ト雖モ帝國船舶内ニテ犯シタル罪ハ此刑法ニ依テ罰セラル

註 釋

第一編 總 則

第一章 法 例

第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス帝國ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

一 第七十三條乃至第七十六條ノ罪

二 第七十七條乃至第七十九條ノ罪

三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪

四 第四百十八條ノ罪及ヒ其未遂罪

五 第五百十四條、第五百十五條、第五百十七條及ヒ第五百十八

傍 訓 新 刑 法 註 釋

明治四十年四月二十四日發布

新 刑 法 註 釋 目 次

第十五章	飲料水ニ關スル罪……………三九	第三十章	遺棄ノ罪……………五七
第十六章	通貨偽造ノ罪……………四〇	第三十一章	逮捕及ビ監禁ノ罪……………五七
第十七章	文書偽造ノ罪……………四一	第三十二章	脅迫ノ罪……………五八
第十八章	有價證券偽造ノ罪……………四二	第三十三章	略取及ビ誘拐ノ罪……………五九
第十九章	印章偽造ノ罪……………四三	第三十四章	名譽ニ對スル罪……………六〇
第二十章	偽證ノ罪……………四四	第三十五章	信用及ビ業務ニ對スル罪……………六一
第二十一章	誣告ノ罪……………四五	第三十六章	竊盜及ビ強盜ノ罪……………六一
第二十二章	猥褻、姦淫及ビ重婚ノ罪……………四六	第三十七章	詐欺及ビ恐喝ノ罪……………六二
第二十三章	賭博及ビ當籤ニ關スル罪……………四七	第三十八章	横領ノ罪……………六三
第二十四章	禮拜所及ビ墳墓ニ關スル罪……………四八	第三十九章	贓物ニ關スル罪……………六四
第二十五章	瀆職ノ罪……………四九	第四十章	毀棄及ビ隱匿ノ罪……………六五
第二十六章	殺人ノ罪……………五〇	附 錄	
第二十七章	傷害ノ罪……………五一	新警察犯處罰令	
第二十八章	過失傷害ノ罪……………五二		
第二十九章	墮胎ノ罪……………五三	目 次 終	

〔帝國〕陸地及ヒ陸地ヨリ三里迄ノ海上ヲ云フ  
第二條 第一條ニテハ帝國內ノ罪ハ何人ニ限ラス罰スルコトヲ定メタルカ本條ニ定メタル罪ハ帝國外ニテ犯シタル者ヲモ罰スルナリ即チ其罪ハ七種ニシテ天皇陛下ノ御家筋ニ關係シタ罪、謀叛ヲ企ツ罪、外國ニ迷惑ヲカケ又ハ日本ノ不爲ヲスルコトノ罪、日本ノ貨幣ノ贋物ヲ造リ又ハ贋物ト知ツテ使フ罪、竝ニ爲シ遂ケサル罪、陛下ノ御印及ヒ役所役人ノ贋印ヲ拵ヘ又ハ役所ノ書類ヲ勝手ニ手入ラスル罪、公債證書會社銀行ノ株券ノ贋物ヲ作り又ハ之ヲ賣買スル罪、是等ノ事ヲ成シ遂ケサルモノ等ナリ

條ノ罪

- 六 第六十二條及第六十三條ノ罪
- 七 第六十四乃至第六十六條ノ罪及ヒ第六十四條第三項、第六十五條第二項、第六十六條第二項ノ未遂罪
- 第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス
  - 一 第八條第九條第一項ノ罪、第九十八條第九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪
  - 二 第九十九條ノ罪
  - 三 第五十九條乃至第六十一條ノ罪
  - 四 第六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪
  - 五 第七十六條乃至第七十九條、第八十一條及ヒ第八十四條ノ罪
  - 六 第九十九條、第二百一條ノ罪及ヒ其未遂罪

第三條 ハ帝國外ト雖モ帝國臣民カ人ノ生命身體自由、財産又ハ信用ニ關スル罪其他放火罪又ハ其未遂、證書ヤ印章ノ偽造ノ罪、猥褻又ハ姦淫ノ罪及ヒ其未遂、殺人ノ罪及ヒ其未遂、老幼又ハ不具者ヲ遺棄タル罪及ヒ其世話ヲセヌ罪、人ヲ勝手ニ監禁又ハ拐取等ノ罪ヲ犯シタルトキハ此刑法ニ依リテ罰セラルハナリ  
以上ノ罪ハ外國ニ居ル我日本人ニ對シ外國人カ犯シタル時モ日本人同様ニ罰セラル  
第四條 日本ノ役人カ假令外國テモ護送ノ罪人ヲ逃シ又ハ逃サウトシ、罪人ヲ酷ク扱ヒ、若クハ賄賂ヲ貰ヒ又ハ貰フ約束ヲナス等ノ事

同シ

- 七 第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪
  - 八 第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪
  - 九 第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
  - 十 第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪
  - 十一 第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪
  - 十二 第二百三十條ノ罪
  - 十三 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪
  - 十四 第二百四十六條乃至第二百五十一條ノ罪
  - 十五 第二百五十三條ノ罪
  - 十六 第二百五十六條第二項ノ罪
- 帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

アレハ此刑法ニヨリ罰セラル、コトヲ定メタリ

第五條 外國ニ於テ罪ヲ犯シ確定ノ裁判ヲ言渡サレタル者ヲモ更ニ此刑法ニヨリテ罰スルコトヲ得ルナリ然レトモ既ニ外國ニテ全部又ハ一部ノ罰ヲ受ケタルトキハ其罪ヲ減輕シ又ハ免除ス事アリ

第六條 罪ヲ犯シタル後ニ罰ノ法律カ變ツタ時ハ其内ノ輕イ罰ヲ受クルコトヲ定メタリ

第七條 刑法ニ於テ公務員トイフハ各官廳ノ役人、各議員、學務ナトノ委員其他市郡役所町村役場ノ書記等ヲ云ヒ、公務所トハ此等ノ人ノ事務ヲ取ル所ヲ云フナリ

第八條 此刑法ノ一條ヨリ七十三

第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

一 第一百一條ノ罪及ヒ其未遂罪

二 第一百五十六條ノ罪

三 第九十三條、第九十五條第二項、第九十七ノ罪及ヒ第九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行爲ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其ノ他職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス  
但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限リニ在ラズ

第二章 刑

第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス

第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス

條マテノ總則ハ他ノ法律ニ定メタル罰ヲ加ヘル時ニモ用ユヘキモノナルコトヲ定ム但其法律ノ中ニ別ノ規則カアレハコノ總則ニ依ルモノニアラス

刑 第二章ノ刑ニ於テハ罰ノ名稱ヤ監獄デノ罪人ノ取扱方ヲ定ム

第九條 罰ニハ重ナ罰ト附加ノ罰トアリ重ナ罰ハ主刑ト云ヒテ死刑懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ノ六種、又附加ノ罰ハ附加刑ト云ヒテ沒收ノ一種ナリ

第十條 ハ刑ノ重イヲ定メタルモノニシテ別ニ説明ヲ要セス

〔有期〕年數ノ定リノアルコト

〔無期〕年數ノ限リノ大キコト

〔寡額〕少ナキ規定

〔多額〕多キ規定  
 〔犯情〕罪ヲ犯シタ時ノ事情  
 第十二條 死刑ハ監獄署ニテ首ヲ絞メテ執行シテ夫迄ハ罪人ヲ監獄ニ拘留ス  
 第十三條 懲役ハ無期ト有期トアリ無期ハ終身即チ死ニ迄テ有期ハ年限ノアルモノテ一ヶ月以上十年以下ナリ何レモ監獄ニ拘留ス  
 第十四條 十二條十三條ニアル如ク懲役禁錮ハ十五年カ留ナルカ犯罪ノ模様ニヨリテ二十年迄ハ重クスル事カ出来減輕スル時ハ一月

二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム  
 第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス  
 第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス懲役ハ監獄ニ拘留シテ定役ニ服ス  
 第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス禁錮ハ監獄ニ拘留ス  
 第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得  
 第十五條 罰金ハ二拾圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二拾圓以下ニ降スコトヲ得  
 第十六條 拘留ハ一日以上三拾日未滿トシ拘留場ニ拘留ス  
 第十七條 科料ハ拾圓以上二十圓未滿トス

以下ニ降スコトヲ得  
 第十五條 罰金ハ二十圓以上テアルカコト以下ニ減スコトモ出来ルナリ  
 第十六條 拘留ハ一日以上三十日迄テ拘留場ニ留メ置ク  
 第十七條 科料ハ十圓ヨリ二十圓迄ナリ  
 第十八條 言渡サレタル罰金ヲ悉ク納ムルコトカ出来ナケレハ一日以上一年以下ノ期間、又科料ナレハ一日以上三十日以下ノ期間勞役場ニ留置ナリ次ニ幾ツモ科料ヲ申渡サレタルトキテモ留置ノ日數ハ六十日ヲ超ユルコトナシ  
 罰金科料ヲ言渡ス時ニハ若シ悉皆納ムルコトカ出来ナイ時ノ留置日

第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス  
 科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス  
 科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス  
 罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ材料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ  
 罰金ニ付テハ裁判確定後三十日以内科料ニ付テハ裁判確定後十日以内本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス  
 罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

數ヲモ一緒ニ申渡スモノナリ  
 罰金ハ裁判ノ確定後卅日以内、科  
 料ハ十日以内ハ本人ノ承知カナケレ  
 ハ留置ノ手續ヲナスコトナシ  
 罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受タル者カ  
 其幾分ヲ納メタル時ハ割合テ其金  
 額ニ當ル丈ケ日數ヲ控除テ跡ノ殘  
 額タケ留置クナリ然レトモ一日ノ  
 割合ニモ足ラヌ金額ハ納ムルヲ得  
 ス

第十九條 ハ罪トナル行為ヲ組立  
 タル物品、罪ヲ犯シタ時ニ用立タ  
 物品及犯罪シタカ爲ニ出來タ物品  
 若クハ犯罪ノ結果手ニ入ツタ物品  
 ハ官ニ取上ルコトアル規定ナリ但  
 其物カ罪人ノ所有品テナケレハ取  
 上ラナサス

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數  
 ニ充ツ

第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一 犯罪行為ヲ組成シタル物
- 二 犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタル物
- 三 犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非  
 サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタ  
 ル物ノ沒收ハ此ノ限リニ在ラス

第二十一條 未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコ  
 トヲ得

第三章 期間計算

〔沒收〕官へ取上ルコト  
 第二十條 拘留又ハ科料ニ該ル罪  
 ニテハ罪トナル行為ヲ組成シタ物  
 品ノ外ハ沒收セラル、コトナシ

第二十一條 未決トテ裁判ノ定マ  
 ラヌ内拘留セラレタ日數ハ罰ノ日  
 數ノ内へ入レテ勘定スルコトヲ得

期間計算ノ期限ノ勘定ノ仕方  
 第二十二條 期間ノ勘定ヲスルニ  
 月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ノ  
 一月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ノ  
 年トシテ計算スルナリ

第二十三條 刑ノ期限ハ裁判ノ確  
 定タ日ヨリ勘定スルモノニシテ拘  
 留セラレサル日數ハ此勘定ニ入ラ  
 ス

第二十四條 刑ヲ受ル初日ハ時間

第二十二條 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒ  
 テ之ヲ計算ス

第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘留セラレザル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時  
 效期間ノ初日亦同シ

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

第四章 刑ノ執行猶豫

第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受  
 ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期  
 間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

- 一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
- 二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ  
 又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ



ニ拘ハラス全一日トシテ勘定シ放免ハ刑限ノ終ツタ翌日ナリ  
 刑ノ執行猶豫ノ特別ノ事情アリテ刑ヲ申渡スモ執行ヲ待ツ規定ナリ  
 第二十五條 如何ナル場合ニハ刑ノ執行ヲ猶豫スルカノ規定ナリ  
 「情狀」罪ヲ犯シタルキノ模様  
 「免除」ユルサルハコト  
 第二十六條 一旦言渡シタル刑ノ執行ノ猶豫ヲ取消ス規定ナリ  
 第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルノ事ナク猶豫期限ヲ過セハ其刑ハ最早罰セラルハコトナシ  
 假出獄 罪人カ改心シタル模様ノ見ユルトキハ假ニ監獄ヲ出ルコト

處セラレタルコトナキ者  
 第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘシ  
 一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
 二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
 三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ  
 第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルハコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ  
 第五章 假出獄  
 第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期徒刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後

ヲ許スコトノ規則ナリ  
 第二十八條 懲役又ハ禁錮ノ處分ヲ受タル者カ改心ノ模様アレハ有期ノ刑ニ付テハ其三分ノ一、無期ノ刑ナレハ十年經過タル後ハ假ニ監獄ヨリ出ルコトヲ許スコトアリ  
 第二十九條 假ニ監獄ヨリ出ルコトヲ許シタルヲ取消ス規定ナリ  
 「假出獄規則」假出獄人ヲ取締ル規則ヲ云フ  
 「違背」規則ニ背クコト  
 「算入」數ヘ入ルハコト  
 第三十條 拘留ノ刑ニ處セラレタル者又ハ罰金、科料ヲ納メサル爲メ留置シタル者ハ何時ニテモ假出獄ヲ許スコトヲ得ルモノナ

行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得  
 第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消ストヲ得  
 一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
 二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
 三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲スコトナキ  
 四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ  
 第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得  
 罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

時効ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得ルニ定メタル年月ノ間刑ヲ受ケサレハ其刑ノ消滅ル規定ナリ  
第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニヨリテ刑ノ執行即チ監獄行ヤ又ハ罰金科料ヲ納ムルコトヲ免サルハナリ  
第三十二條 時効ハ刑ノ言渡ノ確定シタル日ヨリ死刑ハ三十年、無期ノ懲役及禁錮ハ二十年、有期ノ懲役ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年迄ハ五年、罰金ハ三年、拘留科料及沒收ハ一年經過ハ罰セラルコトナキニ至ル  
第三十三條 時効ハ規則ニ依リテ刑ノ執行ヲ猶豫セラレ又ハ刑ノ執行

第六章 時効

- 第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得
- 第三十二條 時効ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケタルニ因リ完成ス
  - 一 死刑ハ三十年
  - 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年
  - 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、年未滿ハ五年
  - 四 罰金ハ三年
  - 五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年
- 第三十三條 時効ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セヌ
- 第三十四條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

ヲ停止テ居ル間ハ時効ノ年限ノ勘定ニ入ラヌナリ  
第三十四條 刑ノ執行ヲ爲シカ爲ニ犯人ヲ捕ハ又ハ罰金、科料、沒收ハ其處分ニ取掛レハ中止セラシテ犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免、事情ニヨリテ犯シタ罪ノ成立又事及ヒ罪ヲ輕メ又ハ免スコトノ規定  
第三十五條 法律規則ニ定メラレ又ハ正當ナル已ノ業務ノ爲ニシタコトハ罪トシテ罰スル者ニアラス  
第三十六條 差シ迫リタル正シカラサル亂暴ヲ受ケ自分又ハ他人ノ權利ヲ防キ衛ル爲メ已ムヲ得スシテ爲シタル行爲ハ罰セラルハ情然レトモ其度ヲ超シタルトキハ情狀ニヨリ其刑ヲ輕メ又ハ免スコト

第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

- 第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セヌ
- 第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セヌ
- 防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
- 第三十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エザル場合ニ限リ之ヲ罰セヌ但其程度ヲ越エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
- 前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セヌ

第三十七條 自分又ハ他人ノ生命身體自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ救フ爲メ據所ナクシタ行爲ハ害ノ度合ヲ超エヌ限リハ罰セラレサルモ其度ヲ超シタモノハ情狀ニヨリテ輕メ又ハ免スコトアリ

第三十八條 罪ヲ犯ス心ナキ行爲ハ特別ノ規則ノナキ限リハ罰セラル

第三十九條 心神喪失者即チ發狂人ナトノ行爲ハ罰セラル、モノニアラス又心神耗弱者トテ智慧ノ足ラス者ノ行爲ハ其刑ヲ輕クス

第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラザル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ズ

法律ヲ知ラザルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト然スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第三十九條 心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條 癡癡者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

第四十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ者ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

第四十條 癡癡者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

第四十一條 滿十四歳ニナラス者ノ行爲ハ罰スルコトナシ

第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ヘ知レヌ内ニ自首シタル者ハ其罪ヲ輕クス又訴ヲ待テ罰フヘキ罪即チ姦通ノ如キハ告訴ノ權利者ニ名乗テ罪ニ服スレハ罰ヲ輕クス

未遂罪 終マテ爲シ遂ケサル罪

第四十三條 罪トナル行爲ヲ爲シ始メ仕遂ケヌ内ニ捕ヘラレタル者ハ其罰ノ幾分ヲ輕クシ自分ノ考テ止メタモノハ其罰ヲ輕クシ又ハ免スモノナリ

第四十四條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各々ノ罪ノ處ニ定メアリ

第八章 未遂罪

第四十三條 犯罪ノ實行ニ着手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

第四十四條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第九章 併合罪

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止メ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

第四十六條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セ、ス但罰金、科料及び沒收ハ此限ニ在ラス

第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪

併合罪 幾個モアル罪ヲ一時ニ裁  
 判スル規定ナリ  
 第四十五條 裁判ノ定マラサルニ  
 ツ以上ノ罪ハ併合罪トテ一緒ニ裁  
 判スルモノナルカ若シ其内ノ或罪  
 ノ裁判カ定マリタルトキハ裁判ノ  
 定ツタ罪ト其罪ノ前ニ犯シタ罪ト  
 ヲ併合罪ト看做スナリ  
 第四十六條 併合罪ノ中ノ一ノ罪  
 カ死刑ニ當ルトキハ他ノ罪ハ罰セ  
 サルモ沒收ノミハ申渡ス又無期ノ  
 懲役禁錮ニ當ル者アレハ矢張他ノ  
 刑ヲ科セサルモ罰金科料沒收ハ申  
 渡ス  
 第四十七條 併合罪ノ中ニツ以上  
 有期ノ懲役又ハ禁錮ニ當ル罪アル  
 トキハ其一番重キ罪ニ定メタル長

アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘ  
 タルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シ  
 タルモノニ超ユルコトヲ得ス  
 第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場  
 合ハ此限ニ在ラス  
 二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處  
 斷ス  
 第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルト  
 キハ之ヲ附加スルコトヲ得  
 二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス  
 第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トア  
 ルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス  
 第五十一條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併  
 セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ

期ノ分ニ其半分ヲ加ヘタルモノヲ  
 併合ノ一番長イ刑ノ期限トスルナ  
 リ  
 第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ同  
 時ニ申附ケ又二個以上ノ罰金ハ各  
 罪ニ付定メタル罰金ノ合算額以下  
 ヲ申渡スヘキナリ  
 第四十九條 併合罪ノ中ノ重キ罪  
 ニ沒收ノナイトキト雖モ他ノ罪ニ  
 アルトキハ附加スルコトヲ得ルナ  
 リ  
 第五十條 併合罪ノ中裁判ヲ經タ  
 モノト經サルモノトアレハ裁判ヲ  
 經サル分ノミヲ處分ス  
 第五十一條 併合罪ノ罰ノ執行方  
 ヲ定メタルモノナリ  
 第五十二條 併合罪テ裁判セラレ

執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ  
 沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最  
 モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユ  
 ルコトヲ得ス  
 第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受タ  
 ル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム  
 第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ  
 場合ハ此限ニ在ラス  
 二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス  
 第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若  
 クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ル、トキハ其最モ重キ刑ヲ  
 以テ處斷ス  
 第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス  
 第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ル、トキ

タルモノノ中或罪カ大赦ヲ免除ニ  
ナリタルトキハ免除セラレサルモ  
ノニ付刑ヲ定ムル規定ナリ  
〔大赦〕天皇陛下ノ御免ニシテ一  
度犯シタ罰モ悉ク消エ再ヒ犯  
シテ再犯ヲ以テ論セラルハナシ  
第五十三條 拘留又ハ科料並ニ他  
ノ刑トハ一所ニ申渡スナリ  
第五十四條 一個ノ行為カ種々ノ  
罪ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ其  
結局ノ行為カ他ノ罪トモナルトキ  
ハ一番重キ刑ヲ以テ處分ス  
第五十五條 引續キタル數個ノ行  
爲カ同シ罪ナルトキハ一罪トシ  
テ處分ス  
累犯 幾度モ罪ヲ犯シタル者ノ處  
分方

ハ一罪トシテ之ヲ處断ス

第十章 累犯

第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除ア  
リタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之  
ヲ再犯トス  
懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免  
除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ  
若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有  
期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ併合罪ニ付キ處断セラレタル者其併  
合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト  
雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス  
第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下  
トス  
第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ

第五十六條 一度罰ヲ受ケナカラ  
重ネテ罪ヲ犯スカ如キハ重ク罰ス  
ヘキヲ以テ本條ハ此ヲ規定セリ  
〔同質〕同シ性質ノ罪  
〔處断〕罪ヲ定メルコト  
第五十七條 再犯ノ刑ノ最モ重キ  
罰ヲ定メタリ  
第五十八條 裁判ノ定マリタル後  
再犯者ナルコトカ發見レタルトキ  
ハ第五十七條ニ依ルモ懲役ノ執行  
ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ノ後ハ右  
ノ如クハ取扱ハス  
第五十九條 三犯以上ニテモ再犯  
ト同様ノ罰シ方ナリ  
共犯 二人以上ノ者カ共同シテ一  
ノ罪ヲ犯シタルトキノ罰シ方

第十一章 共犯

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス  
第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス  
教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ  
第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス  
從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス  
第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス  
第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特  
別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス  
第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルト

第六十條 二人以上ノ者カ共々ニ罪ヲ犯シタルトキハ皆重ナ罪人即チ正犯トシテ取扱フ

第六十一條 人ヲ唆カシテ罪ヲ犯サシメタル者ハ自身罪ヲナサハルモ正犯者トシテ罰シ又唆唆者ヲ唆カシタルモノモ同ク罰セラル

第六十二條 正犯ノ手傳ヲナシタル者ハ從犯トシテ罰セラル

第六十三條 從犯ハ正犯ヨリモ幾分カ輕ク罰セラル

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處スヘキ罪ノ教唆者及從犯ハ特別ノ規定カナケレハ罰セラレス

第六十五條 身分ニ依テ成立ツ罪ノ手傳ヲナシタル者ハ其身分ナキ

キハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス  
身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

第十二章 酌量減輕

第六十六條 犯罪ノ情狀 憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

第十三章 加減例

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可シ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

- 一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス

モ仍共犯トシテ罰セラル

酌量減輕 事情ニ因リテ罰ヲ輕クスル規定ナリ

第六十六條 罪ヲ犯セシ時ノ情狀及ヒ事情ニ察スヘキコトノアルモノハ其罪ヲ輕クスルコトヲ得

第六十七條 法律ノ定ニヨリ刑ヲ重クシ輕クスル場合テモ酌量減輕ヲナスモノナリ

加減例 罰ヲ加ヘ又ハ減スルコトニ付テノ規定

第六十八條 本條ハ刑ノ輕ク仕方ニ付テノ規定ナリ

〔原由〕わけがら

〔金額〕金額ノ高

第六十九條 法律ニヨリテ刑ヲ輕クスルトキニハ何ノ刑ヲ適用ルカ

懲役又ハ禁錮トス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ二ヲ減ス

四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス

六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第七十條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時

間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ

滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

第七十一條 酌量減輕ヲ爲スコトキキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例

ニ依ル

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

ヲ定メタル後其刑ヲ減輕スルナリ  
第七十條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ  
輕クスル爲メ一日ニ足ラヌ時間カ  
出タトキハ其時間ハ切棄テ罰金又  
ハ科料ヲ輕クスル爲メ一錢以下ノ  
端金モ同シク切棄テルナリ  
第七十一條 酌量減輕ヲ爲スト  
キモ亦第六十八條及第七十條ノ例  
ニヨリ處分スルナリ  
第七十二條 同時ニ罰ヲ重クシ輕  
クスルトキノ順序ヲ定メタルナリ  
〔再犯加重〕二度罪ヲ犯シタル者  
ヲ重ク罰スルコト  
〔法律上ノ減輕〕總テノ規則ニヨ  
リテ罪ヲ減ラシタルコト  
〔併合罪ノ加重〕二以上ノ罪ヲ併  
セテ重クシタルコト

- 一 再犯加重
- 二 法律上ノ減輕
- 三 併合罪ノ加重
- 四 酌量減輕

第二編 罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ  
對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス  
第七十四條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ  
對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ  
第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘ  
ントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

〔酌量減輕〕事情ヲ酌ンテ罰ヲ  
輕クスルコト  
罪 如何ナル行爲カ罪トナルカ又  
如何ナル罰ヲ受クルヤヲ定メタリ  
皇室ニ對スル罪 天子様ノ御家筋  
ニ對シテ犯シタル罪  
第七十三條 天皇、太皇太后、皇  
太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ノ  
御方々ニ對シテ危害ヲ加ヘヤウ  
トシタル者ノ罰ヲ定メタリ  
第七十四條 前ニ掲ケタ御方及ヒ  
伊勢ノ大神宮又ハ代々ノ天子様ノ  
御墓ニ對シテ不禮ヲナシタル者ノ  
罰ヲ定メタリ  
第七十五條 皇族トハ天子様ノ御  
一族ナリ  
内亂ニ關スル罪 日本ノ國ヲ亂サ

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下  
ノ懲役ニ處ス

第二章 内亂ニ關スル罪

第七十七條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコ  
トヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從  
テ處斷ス  
一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス  
二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年  
以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上  
十年以下ノ禁錮ニ處ス  
三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮  
ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在  
ラス

ノトスル罪  
第七十七條 邦ノ領分ヲ盜マントシ其他朝憲ヲ案亂サントシテ騒動ヲ起シタル者ノ罰シ方ナリ

〔首魁〕かしら即チ總大將ノコト  
〔謀議ニ參與シ〕相談ニ預カルコト

〔群衆ノ指揮〕大勢ノ指圖  
〔諸般ノ職務〕種々ノ役目

〔附加隨行〕俗ニ云フ野次馬ノコト

〔干與〕たづさはるコト

第七十八條 内亂ノ準備ヤ又ハ下相談ヲナシタル者ノ罰シ方ヲ定ム  
第七十九條 戰道具ヤ金錢兵糧ヲ與ヘ又ハ其他ノ行爲ヲテ七十七、七

第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

第七十九條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第三章 外患ニ關スル罪

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス  
兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十三條 敵國ヲ利スルガ爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽

十八條ノ罪ヲ手助ヲナシタル者ヲ罰スルコトヲ定ム

第八十條 七十八、七十九條ノ罪ヲ犯シタル者モ未タ騒動ニナラヌ

前ニ自首スレハ免サル、規定ナリ  
外患ニ關スル罪 外國ト腹ヲ合セ

日本ノ不爲ヲ謀ル罪ナリ  
第八十一條 外國ト謀テ日本ニ對シテ戰ヲ開カシメ又ハ敵國ノ味方

ヲシテ日本ニ抗敵シタル者ノ罰シ方  
第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船、軍用ノ場所又ハ建物其他兵器、彈藥等ノ軍用物ヲ敵國ニ交付シタル者ノ罰シ方ヲ定ム

第八十三條 八十二條ノ如ク敵國ニ渡サザルモ敵國ノ便利ヲ謀ル爲ニ軍用物ヲ損ジ又ハ使フコト能ハ

車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタルモノハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ  
第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ



ザルヤウニ爲シタル者ノ罰シ方  
 第八十四條 ハ軍用ニ用キザル兵  
 器彈藥其他戰ニ用非ル物ヲ敵ノ國  
 ニ交付シタル者ヲ罰スル規定ナリ  
 第五十八條 敵國ノ間諜トナリ又  
 ハ敵ノ間諜ノ補助ヲナシタル者及  
 ビ軍事上ノ秘密ヲ敵ニ漏洩シタル  
 者ノ罰シ方ヲ定ム  
 第八十七條 右八十一條ヨリ八十  
 六條マデノ罪ハ爲シ遂ゲザルモ猶  
 罰セラルモノナリ  
 第八十八條 ハ八十一條ヨリ八十  
 六條迄ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲナ  
 シタル者ヲ罰スルコトノ規定ナリ  
 第八十九條 以上外患ノ罪ノ定ハ  
 戰時我國ト同盟シタル國ニ對シ  
 テナシタル行ニモ亦適用メテ罰

陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
 第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第四章 國交ニ關ルス罪

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅  
 迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ  
 三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス  
 第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫  
 ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年  
 以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス  
 第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ  
 國章ヲ損壞 除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓  
 以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

ス  
 國交ニ關スル罪 我國ト交際セル  
 外國ニ對スル罪ナリ  
 第九十條 日本ニ滞在中ノ外國ノ  
 君主又ハ大統領ニ對シテ暴行又ハ  
 脅迫ヲ加ヘタル者ノ罰シ方ナリ  
 第九十一條 ハ我國ニ遣ハサレタ  
 ル外國ノ使者又ハ公使ニ暴行、脅  
 迫又ハ侮辱ヲ加ヘタル者ノ罰シ方  
 ヲ定メタルモノナリ  
 第九十二條 外國ヲ辱カシムル口  
 的ニテ其國ノ國旗又ハ國章ヲ壞  
 シ、取除ケ又ハ汚穢シタル者ノ罰  
 シ方ナリ  
 第九十三條 ハ自分勝手ニ外國ト  
 戰フ目的ニテ下相談ヲナシタル者  
 ノ罰シ方ヲ定ム

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰闘ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀  
 ヲ爲シタル者ハ三年以上五年以下ノ禁錮ニ爲ス但自首シタル者ハ  
 其刑ヲ免除ス

第九十四條 外國交際ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者  
 ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅  
 迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九十六條 公務員ノ施行シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其  
 他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者ハ二年以下ノ  
 懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條 公務員ノ施行シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其  
 他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者ハ二年以下ノ  
 懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十六條 公務員ノ施行シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其  
 他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者ハ二年以下ノ  
 懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六章 逃走ノ罪

第九十四條 外國同士ヲ戰フナセ  
ルトキ局外中立ニ關スル命令ニ  
違背タル者ノ罰シ方ナリ  
公務ノ執行ヲ妨害スル罪 役人ノ  
職務ヲ邪廢スル者ヲ罰スル規定也  
第九十五條 ハ役人ガ職務ヲ行フ  
トキニ亂暴又ハ脅迫シ、又ハ其邪  
魔ヲナシ若クハ辭職セシムル爲暴  
行脅迫ヲ加ヘタル者ヲ罰スル規定  
ナリ  
第九十六條 役人ノツケタ封印又  
ハ差押ノ標章ヲ損壞又ハ其他ノ方  
法ニテ無効ナラシメタル者ハ本條  
ニヨリテ罰セラル  
逃走ノ罪 逃ゲタル罪人又ハ罪人  
ヲ逃シタル者ノ罰シ方ノ規定  
第九十七條 既ニ刑ノ決リタル罪

第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ  
處ス  
第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ拘引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁  
場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シ  
テ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以  
上五年以下ノ懲役ニ處ス  
第一百條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器  
具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年  
以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下  
ノ懲役ニ處ス  
第一百一條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘  
禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

人又ハ未決ヲ決ラヌ者ガ逃走シタル  
トキハ本條ノ罰ヲ受ク  
第九十八條 既決、未決ノ囚人又  
ハ拘留中ノ者ガ拘禁場又ハ械具ヲ  
損壞又ハ暴行、脅迫ヲ以テ若クハ  
二人以上相談ノ上逃走シタル者ハ  
本條ニ依リテ罰セラルルナリ  
第九十九條 ハ法令ニ依テ拘禁セ  
ラレタル者ヲ奪取タル者ノ罰シ方  
ヲ定ム  
第一百條 法令ニ因リ拘禁タル者ヲ  
逃走セシムル目的ニテ道具ヲ渡シ  
又ハ逃易キ様ニ便宜ヲ與ヘタル者  
及ビ右ノ目的ヲ暴行脅迫ヲナシタ  
ル者ハ本條ニヨリテ罰セラル、也  
第一百一條 ニ於テハ法令ニ因リ拘  
禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送ス

第一百二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第七章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪  
第一百三條 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタ  
ル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓  
以下ノ罰金ニ處ス  
第一百四條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造、變  
造シ若クハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又  
ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第一百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者  
ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス  
第八章 騷擾ノ罪  
第一百六條 多衆集合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲  
シ左ノ區別ニ從テ處斷ス  
一 首魁一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

ル者ガ其拘留セル者ヲ逃シヤリタルトキノ罰ヲ定ム  
第百二條 以上ノ逃走罪ハ爲シ遂ゲザルモ罰セラルハナリ  
犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪 罪人ヲ藏匿シ又ハ證憑ヲ採消ス罪ナリ  
第百三條 罰金ヨリ重キ刑ニ該ル罰ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿又ハ隠避セタル者ノ罰シ方ヲ定ム  
第百四條 他人ノ犯罰事件ノ證據ヲ湮滅シ又ハ偽造、若クハ變造シ、或ハ偽ノ證據ヲ用キタル者ハ本條ニヨリテ罰セラル  
第百五條 百三條、百四條ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ガ其人違ノ爲ニ犯シタルトキハ罰セサルナリ

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第百七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第九章 放火及ヒ失火ノ罪  
第百八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、流車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス  
第百九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

騷擾ノ罪 世間ヲ騷ガス罪ヲ云フ  
第百六條 多勢ヲ聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪トシテ罰セラルハナリ  
〔首魁〕からし即チ總大將  
〔指揮〕さしづスルコト  
〔率先シテ勢ヲ助ケ〕先手トナリテ加勢スルコト  
〔附加隨行〕附キ隨フ者即チ彌次馬  
第百七條 是等ノ者ガ役人ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回ニ及ブモ尙解散セザルトキノ罰則ナリ  
放火及ヒ失火ノ罪 放火、過失火ノ罰ヲ定ム  
第百八條 現ニ人ノ住居シ又ハ人ノ居ル建物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ニ火ヲ放ケテ燒キタル

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス  
第百十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第百十一條 第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
第百十二條 第百八條及ヒ第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第百十三條 第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免

者ノ罰シ方ヲ定メタルモノニシテ  
第百九條 ハ現ニ人ノ住居セズ又  
ハ人ノ居ラヌ右等ノ物ヲ燒キタル  
者ヲ罰スルナリ

〔公共〕世ノ中ト云フコト

第百十條 百八條ニ掲ゲタ以外ノ  
物ニ火ヲ附ケテ燒キ世間ヲ騒ガシ  
タル者ハ本條ニヨリテ罰セラル

第百十一條 ハ百九條二項又ハ百  
十條二項ノ物ヲ燒キタル爲メ百八  
條ノ物ヲ燒キタルトキ罰ヲ定ム

第百十二條 ハ百八條及百九條一  
項ノ未遂罪ヲモ罰スルコトヲ掲ク

第百十三條 ハ百八條又ハ百九條  
一項ノ罪ヲ犯サンガ爲メ豫備ノミ  
ヲナシタル者ノ罰ヲ定ム

第百十四條 火事ノ時鎮火ノ道具

除スルコトヲ得

第百十四條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隠匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方  
法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百十五條 第百九條第一項及ヒ第百十條第一項ニ記載シタル物自  
己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若ク

ハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル  
者ノ例ニ同シ

第百十六條 火ヲ失シテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ  
係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金

ニ處ス  
火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十  
一條ニ記載シタル物ヲ燒燬シテ因テ公共ノ危險ヲ生シメタル者亦

同シ  
第百十七條 火藥、瀧罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條

ヲ隠匿又ハ損壞、其他ノ方法ニテ  
鎮火ノ邪魔ヲナセシ者ノ罪ヲ定ム

第百十五條 ハ百九條一項及百十  
條一項ニ掲ゲタル物が自己ノ物ナ  
リトモ差押ヲ受ケ、抵當ヤ質ニ入

レ又ハ貸貸シ若クハ保險ヲ附ケテ  
ル物ヲ燒キタルトキハ他人ノ物ヲ

燒キタルト同ク罰スルコトヲ掲ク

第百十六條 ハ過失テ建物其他ノ  
物ヲ燒キタル時ノ罰シ方ナリ

第百十七條 火藥、汽罐其他激發  
スベキ物ヲ破裂セシメテ百八條ニ

掲ゲタル物又ハ他人ノ所有ノ百九  
條又ハ百十條ニ掲ゲタル物ヲ破損  
セシメタル者ハ本條ノ罰ヲ受ク

第百十八條 ハ瓦斯電氣又ハ蒸汽  
ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ

ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ  
損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載

シタル物又ハ第百十一條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險  
ヲ生シメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

第百十八條 瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ  
遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生シメタル者ハ三

年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ  
人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第百十九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル  
建造物、瀧車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若

クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

遮断セズ爲ニ人ノ生命、身體又ハ  
財産ニ危険ヲ生ゼシメ或ハ人ヲ死  
傷セシメタル者ノ罪ヲ掲グ  
溢水及ビ水利ニ關スル罪 水ヲ溢  
ラシテ水害ヲ與ヘ又ハ田地ノ水都  
合ノ邪魔ヲスル罪  
第百十九條 ハ水ヲ溢ラシテ現ニ  
人ノ住居シ又ハ現ニ人ノ居ル建物  
汽車、電車若クハ鑛坑ニ害ヲ加ヘ  
タルモノ、罰ヲ定ム  
第百二十條 ハ其外ノ物ニ害ヲ與  
ヘ爲ニ世間ニ害ヲ與ヘタル者ノ罰  
ヲ定ム  
第百二十一條 水害ノ場合ニ防水  
用物ヲ隠匿又ハ損壞若クハ其他ノ  
方法ヲ以テ水ヲ防ク妨害ヲナシタ  
ル者ハ本條ニヨリテ罰セラル

第百二十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ  
公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又  
ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル  
第百二十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隠匿又ハ損壞若クハ其他ノ  
方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
第百二十二條 過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタル物  
ヲ浸害シタル者又ハ第百二十二條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共  
ノ危険ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第百二十三條 堤坊ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル  
可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役  
若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第十一章 往來ヲ妨害スル罪  
第百二十四條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害

第百廿二條 過失ノ爲ニ水ヲ溢ラ  
シテ百十九條ニ掲ゲタル物又ハ百  
二十條ノ物ニ害ヲ與ヘタル者ヲ罰  
スル規定ナリ  
第百廿三條 堤防ヲ決潰シ、水閘  
ヲ破壞シ其他水利ノ妨害トナルコ  
トヲナシ又ハ出水スルヤウナ行爲  
ヲ爲シタル者ノ罰シ方ナリ  
往來ヲ妨害スル罪 往來ノ邪魔ヲ  
スル罪ヲ云フ  
第百廿四條 ハ道筋、川筋又ハ橋  
ヲ壞シ又ハ塞ギテ往來ノ邪魔ヲナ  
シタル者ノ罰シ方ナリ  
第百廿五條 ハ鐵道又ハ其標識ヲ  
損壞又ハ其他ノ方法ニテ汽車、電  
車ノ往來ヲ危険ニシ又ハ艦船ヲ覆  
没又ハ破壞シタル者ノ罪ヲ定ム

ヲ生シセメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重  
キニ從テ處斷ス  
第百二十五條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車  
又ハ電車ノ往來ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ  
處ス  
燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危険ヲ  
生シセメタル者亦同シ  
第百二十六條 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シタル者  
ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス  
人ノ現在スル艦船ヲ覆没又ハ破壞シタル者亦同シ  
前二項ノ壞ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ  
處ス  
第百二十七條 第百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆若

第百廿六條 ハ汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壊シ若クハ艦船ヲ覆没又ハ破壊シタル者ノ罪ナリ

第百廿七條 ハ百廿五條ニ記シタル罪ヲ犯シタル爲汽車、電車ヲ顛覆又ハ破壊若クハ艦船ヲ覆没又ハ破壊シタル者ノ罰シ方ナリ

第百廿八條 百廿四條一項、百廿五條及ヒ百廿六條一項、二項ノ罪ハ之ヲ仕遂ケサルモ罰セラル

第百廿九條 ハ過失ノ爲メ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ニ危険ヲ與ヘ又ハ顛覆、覆没若クハ破壊シタル者ノ罰シ方ヲ定メタリ

住居ヲ侵ス罪 理由ナクシテ人ノ住居ヲ侵シタル罪ナリ

第百三十條 故ナク人ノ住居又ハ

クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第百二十八條 第百二十四條、第一項、第百二十五條及ヒ第百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危険ヲ生ゼシメ又ハ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者ハ五百圓以上ノ罰金ニ處ス

其業務ニ従事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二章 住居ヲ侵ス罪

第百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者

人ノ看守セル邸宅、建物又ハ船ニ侵入シ又ハ立退ヲ求メラル、モ退カザル者ハ本條ニヨリテ罰セラル

第百卅一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所及ヒ神宮、代々ノ天子様ノ御嘉所ニ侵入シタル者ノ罰ヲ定ム

第百卅二條 右百三十、百三十一條ノ罪ハ仕遂ゲザルモ罰セラル

秘密ヲ侵ス罪 他人ノ手紙ヲ開封シ又ハ他人ノ理由ナク人ニ漏ス罪

第百卅三條 理由モナキニ封緘シタル手紙ヲ開ケタル者ハ本條ノ罰ヲ受ク

第百卅四條 ハ醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者宗教

ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第百三十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十三章 秘密ヲ侵ス罪

第百三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

第百三十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

若クハ職務ノ職ニ在ル者ガ其業務  
上取扱ヒタルコトニ付キ知得タ  
ル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ本  
條ニヨリテ罰セラルナリ

第百卅五條 右百三十三、百三十  
四條ノ罪ハ本人ノ告訴ナクハ罰  
セズ

阿片煙ニ關スル罪 阿片煙ノ賣買  
又ハ吸食スル罪ヲイフ

第百卅六條 阿片煙ヲ外國ヨリ持  
込ミ製造シ又ハ販賣シ若クハ販賣  
ノ目的ニテ持テ居ル者ハ本條ニヨ  
リテ罰セラルナリ

第百卅七條 前條ハ阿片煙ニ關シ  
テノ罪ナルガ本條ハ阿片煙ヲ吸食  
スル道具ニ付テノ罪ナリ

第百卅八條 ハ税關吏ガ阿片煙及

**第十四章 阿片煙ニ關スル罪**

第百三十六條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ  
以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若ク  
ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役  
ニ處ス

第百三十八條 税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ  
其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上  
七年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以  
下ノ懲役ニ處ス

第百四十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

ビ之ヲ吸フ道具ヲ外國ヨリ持込ム  
ヲ許シタルトキノ罰則ナリ

第百卅九條 阿片煙ヲ吸ヒタル者  
及ビ之ヲ吸フ爲メ房屋ヲ貸セテ利  
ヲ圖リタル者ハ本條ノ罰ヲ受ク

第百四十條 阿片煙又ハ之ヲ吸フ  
道具ヲ所持シタル者ハ本條ニヨリ  
テ罰セラル

第百四十一條 阿片煙ノ罪ハ未遂  
ナリト雖ドモ罰セラル

飲料水ニ關スル罪 トハ飲水ニ關  
係セル罪ヲ云フ

第百四十二條 他人ノ飲料ニ使フ  
淨水ヲ汚シテ用キラヌ様ニシタ  
ル者ハ本條ニヨリテ罰セラル

第百四十三條 水道ニ由リ世間ノ  
人ノ用ニ充ツル淨水又ハ水ノ源ヲ

**第十五章 飲料水ニ關スル罪**

第百四十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト  
能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰  
金ニ處ス

第百四十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ  
汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上  
七年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可  
キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害  
ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第百四十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ  
毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期  
懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以

汚シテ之ヲ用キラレザル様ニナシタルモノハ本條ノ罰ヲ受ク  
第四百四十四條 一人ノ飲料ニスル淨水ニ毒物其他他人ノ身體ノ害ニナル物ヲ混ゼタル者ノ罰則ヲ定ム  
第四百四十五條 右百四十二、百四十三、百四十四條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ殺シ又ハ傷ケタル者ハ本條ニヨリテ罰セラル、ナリ  
第四百四十六條 第四百四十三條ニ掲ゲタル淨水又ハ其源ニ毒物又ハ人ノ健康ニ害アル物ヲ混入レタル者ノ罰則方ナリ  
第四百四十七條 世間多數ノ人ノ飲料トスル淨水ノ水道ヲ壞シ又ハ水ノ通ゼヌ様ニナシタルモノハ本條ノ罰ヲ受クルナリ

上ノ懲役ニ處ス  
第四百四十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十六章 通貨偽造ノ罪

第四百四十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス  
偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ  
第四百四十九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス  
偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ  
第四百五十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

通幣偽造ノ罪 賈金ヲ造リ又ハ賈金ヲ使フ罪  
第四百四十八條 使用ノ目的ヲ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ賈物ヲ造リ又ハ造リ變へ、又ハ此等ノ物ヲ行使又ハ行使ノ目的ニテ之ヲ人ニ交付シ若クハ外國ヨリ持込シタル者ハ本條ニヨリテ罰セラル  
第四百四十九條 前條ハ内國ノ貨幣及ビ銀行券ナルガ本條ハ外國ノ貨幣及ビ銀行券ノ偽造變造行使ニ付テノ罪ナリ  
第四百五十條 行使ノ目的ニテ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ受取リタル者ノ罰ヲ定メタリ  
第四百五十一條 前三條ノ罪ハ未遂ナリト雖下モ罰セラル

第四百五十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四百五十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ基名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スルコトヲ得ス

第四百五十三條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以下ノ懲役ニ處ス

第十七章 文書偽造ノ罪

第四百五十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス  
御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者亦同シ



第百五十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ取得タル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知リナガラ之ヲ行ヒ又ハ行使ノ目的デ人ニ交附シタル者ハ本條ノ罰ヲ受クルナリ  
〔名價〕 價金ノ表ニ記シタル額  
第百五十三條 ハ貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造變造ノ用ニ供ヘル爲メ器料反ハ原料ノ準備ヲナシタル者ヲ罰スル規定ナリ  
〔原料〕 製造ノもとニナル物  
文書偽造ノ罪 書類ノ偽物ヲ作ル罪  
第百五十四條 ハ使用ノ目的ニテ天子様ノ御印、日本國ノ印又ハ天子様ノ御名ヲ用キテ詔書其他ノ文書ノ偽物ヲ作り又ハ偽造シタル

第百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ  
前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以上以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ノ依ル  
第百五十七條 公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル

御印、國ノ印等ヲ用キタ者等ノ罰ヲ定ム  
第百五十五條 ハ公務所又ハ公務員ノ文書又ハ印ヲ偽造シ若クハ變造シタル者ノ罰則ナリ  
第百五十六條 ハ公務員ガ其職務ニ關シ行使ノ目的ニテ虚偽ノ文書ヲ作り又ハ文書ヲ變造シタルトキノ罰ヲ定メタルモノナリ  
第百五十七條 公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲナシ權利義務ニ關スル公正證書、免狀、鑑札等ニ不實ノ事ヲ記載セシメタル者ノ罰ナリ  
〔公正證書〕 人民ノ囑托ニヨリ公證人ガ作りタル證書ヲ云フ  
第百五十八條 ハ右百五十四條ヨリ百五十七條マデノ文書又ハ圖畫

公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第百五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

ヲ行使シタルモノノ罰ヲ定ム  
第五百九條 ハ行使ノ目的ニテ  
他人ノ印章ヲ押シ又ハ其名前ヲ記シ  
權利義務ニ關係アル書類等ノ偽物  
ヲ作り又ハ是等ノ書類ニ手入ヲナ  
シタル等ノ罰ヲ定ム  
第六十條 ハ醫師ガ公務所ニ差  
出スベキ診断書、檢案書又ハ死亡  
證書ニ虚偽ヲ記載シタル罪ナリ  
〔診断書〕見立書ノコトナリ  
〔檢案書〕檢死ノ見立書  
第六十一條 ハ右百五十九條百  
六十條ニ記載シタル文書ヲ行使シ  
タル者ハ其文書ノ偽物ヲ作り又ハ  
手入ヲナシ又ハ虚偽ノ事ヲ記載シ  
タル者ト同一ノ刑ヲ受クベキコト  
ヲ定メタリ

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實  
證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ  
前二條ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽  
造又ハ變造シタルモノハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處  
ス  
第六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診断書、檢案書又ハ死亡證書  
ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ  
罰金ニ處ス  
第六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ  
其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者  
ト同一ノ刑ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第十八章 有價證券偽造ノ罪  
第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株  
券、其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下  
ノ懲役ニ處ス

有價證券偽造ノ罪 有價證券トハ  
公債證書、會社銀行ノ株券又ハ相  
當ノ値段ヲ以テ賣買スルコトヲ得  
ル證書ニシテコレ等ノ證書ノ偽物  
ヲ作り又ハ變造ヲナシタルモノハ  
百六十二條以下ニヨリテ罰セラル  
ハナリ  
第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ  
公債證書、官府ノ證券、會社ノ株  
券其他ノ有價證券ノ偽物ヲ作り又  
ハ變造ヲナシ若クハ虚偽ノ記入ヲ  
爲シタル者ハ本條ニヨリ罰セラル  
第六十三條 本條ハ偽造、變造  
又ハ虚偽ノ記入ヲナシタル有價證  
券ヲ行使又ハ人ニ交附シタル者ノ  
罰シ方ヲ定ム  
印章偽造ノ罪 俗ニ云フ謀判ノコ

第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル  
者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス  
御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又  
ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ  
第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署  
名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
第十九章 印章偽造ノ罪  
第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル  
者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス  
御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又  
ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ  
第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署  
名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

トニテ他人ノ偽印ヲ作ル罪ナリ  
第百六十四條 ハ天子様ノ御印、  
國ノ印又ハ御名ヲ偽造シ若クハ不  
正ニ使用シタルコトヲ知リナガラ  
其偽物ヲ使用シタル者ヲ罰スルノ  
規定ナリ  
第百六十五條 公務所又ハ公務員  
ノ印章若クハ署名ノ偽造ヲ造リ若  
クハ其偽造ヲ使用シタル者ハ本條  
ニ依リテ罰セラル、ナリ  
〔署名〕姓名ヲ記ルスコト  
第百六十六條 ハ公務所ノ記號ヲ  
偽造シ又ハ其偽造シタル記號ヲ使  
用シタル者ノ罰シ方ヲ定ム  
〔記號〕しるしノコト  
第百六十七條 使用ノ目的ニテ他  
人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シ又ハ

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタ  
ル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ  
第百六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三  
年以下ノ懲役ニ處ス  
公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用  
シタル者亦同シ  
第百六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタ  
ル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ  
署名ヲ使用シタル者亦同シ  
第百六十八條 第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六  
十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第二十章 偽證ノ罪  
第百六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルト

他人ノ印章若クハ署名ヲ勝手ニ使  
用シタル者ハ如何ナル罰ヲ受  
クヤハ本條ノ規定スル所ナリ  
第百六十八條 以上ノ謀判ノ罪ノ  
中ニテ如何ナル場合ハ之ヲ仕遂  
ゲザルモ罰セラル、ヤヲ定ム  
偽證ノ罪 役所ニ對シテ偽ノ證據  
立ヲナシタルモノノ罪ナリ  
第百六十九條 法律ノ規定ニヨリ  
宣誓ヲナシタル證人ガ虛偽ノ申立  
ヲナシトキハ本條ニヨリ罰セラル  
〔宣誓〕偽ヲ申立テザル誓ノコト  
第百七十條 右ノ罪ヲ犯スモ其事  
件ノ裁判ノ確定セザル前ニ又ハ自  
分ガ罰ヲ受ケザル前ニ自白シタル  
トキハ其罪ヲ減輕又ハ免除サル、

キハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
第百七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又  
ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ハ減輕又ハ免除スルコトヲ得  
第百七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル證人又ハ通事虛偽ノ鑑定又  
ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ  
第二十一章 誣告ノ罪  
第百七十二條 人ヲシテ刑事事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以  
テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第百六十九條ノ例ニ同シ  
第百七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前  
又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ  
得  
第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪  
第百七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス  
第百七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ

コトアルヲ定ム  
 「**白日**」自分ヨリ名乗リテ白狀スルコト  
 第百七十一條 鑑定人又ハ通事ガ以上ノ行ヒアリタルトキノ罰シ方也  
 誣告ノ罪 他人ニ罰ヲ蒙ラシムル目的ニテ虚偽ノ申立ヲナス罪ナリ  
 第百七十二條 他人ヲ刑法上ノ罪人トシ又ハ懲戒セシムル目的ニテ虚偽ノ申立ヲナシタル者ハ本條ニ依リテ罰セラルヘナリ  
 第百七十三條 假令前條ノ罪ヲ犯スモ其刑ノ減輕又ハ免除セル、コトアルヲ定ム  
 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪 猥褻トハ卑褻ナルコト、姦淫トハ正シカラ

公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ  
 第百七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タル男女ニ對テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ  
 第百七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ  
 第百七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ヲラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ  
 第百七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
 第百八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス  
 第百八十一條 第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ囚テ人ヲ

ル色事、重婚トハ二重ニ婚禮ヲスルコト、是等ノ罪ヲ云フ  
 第百七十四條 公然ト猥褻ナル事ヲナシタル者ノ罰シ方ヲ定ム  
 第百七十五條 ハ猥褻ノ圖書例ヘバ春畫ノ如キ者ヲ販賣又ハ店頭ニ並べ或ハ販賣目的ヲ所持セル者ハ如何ニ罰セラルヘキノ規定ナリ  
 第百七十六條 男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲナシタル者ノ罰シ方ナリ  
 第百七十七條 ハ強姦ノ罪ト爲シ女ニ對シ無理ニ情慾ヲ遂ゲタル者ノ處分ヲ定ム  
 第百七十八條 ハ同ジク強姦ノ罪ナルモノノ氣ヲ喪ヒ又ハ拒抗ノ出來ズニ乘ジ又ハ出來ヌ様ニシテテ

死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス  
 第百八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第百八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ  
 前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ  
 第百八十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ  
 第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪  
 第百八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス  
 第百八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ニ三年以下ノ

シタル者ノ罰シ方ナリ  
第百七十九條 以上ノ罪ハ未遂ナルモ尙罰セラル、モトヲ定ム  
第百八十條 以上ノ罪ハ被害者ノ告訴ナケレバ罰セズ  
第百八十一條 百七十六條ヨリ百七十九條ノ罪ヲ犯シ爲ニ人ヲ殺シ又ハ傷ケタル者ノ罰シ方ヲ定ム  
第百八十二條 營利ノ目的ヲ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸メテ姦淫セシメタル者ノ罪ナリ  
〔營利〕儲蓄ケノコト  
〔淫行ノ常習〕淫事ヲ商賣ニシタリ  
第百八十三條 姦通ノ罪ナリ  
〔縱容〕ゆるすコト  
第百八十四條 配偶者ノアル者ガ

懲役ニ處ス  
賭博場ヲ開帳シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
第百八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス  
富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス  
前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四章

禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル

第百八十八條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十年以下ノ罰金ニ處ス

重シ婚姻ヲナシタルトキノ罰シ方  
賭博及富籤ノ罪 博奕ト富籤ノ罪  
第百八十五條 紛レ當リノ輸贏ヲ目的ニ賭博又ハ賭事ヲナシタル者ハ本條ニヨリテ罰セラル  
第百八十六條 賭博賭事ヲ商賣ニシ又ハ賭博場ヲ開キ若クハ賭徒ヲ集テ利ヲ圖ル者ノ罰シ方ナリ  
第百八十七條 富籤ヲ發賣及取次ヲ爲シ又ハ授受シタル者ノ罰則也  
禮拜所及墳墓ニ關スル罪 神佛ヲ祭レル所、墓ナドニ關スル罪  
第百八十八條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ不敬ノ行爲ヲナシ又ハ說教、葬式等ノ妨害ヲナシタル者ハ本條ノ罰ヲ受ク  
策百九十條 ハ死體、遺骨又ハ棺

說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス  
第百九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
第百九十一條 第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
第百九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
第二十五章 瀆職ノ罪  
第百九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

内ニ職メタル物ヲ損壞、遺棄又ハ取得タル者ノ罰シカ  
 第百九十一條 ハ右ノ罪ヲ犯シテ損壞、遺棄又ハ取得タルノ罰ナリ  
 第百九十二條 變死人ヲ檢視ヲ濟サズシテ葬リタル者ハ本條ノ罰ヲ受クルナリ  
 瀆職ノ罪 不都合ナル事ヲナシタル公務員ノ罪  
 第百九十三條 公務員ガ其職權ヲ濫ニ用ヒ義務ナキコトヲナシメ又ハ行フ權利アルコトヲナシメザルトキ本條ニヨリテ罰セラル  
 第百九十四條 裁判、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補ク者ガ其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルキノ罰シ方ナリ

第百九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
 第百九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ  
 第百九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス  
 第百九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十五條 右ニ掲ゲタル者ガ其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ本條ノ罰ヲ受クルナリ  
 第百九十六條 ハ右百九十四百九十五條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ノ罰シ方ナリ  
 第百九十七條 公務員又ハ仲裁人ガ其職務ニ關シ賄賂ヲ收取又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキ及ビ之ガ爲ニ正シカラザル行爲ヲナシ又ハ相當ノ行爲ヲナサルトキノ處分方ナリ  
 第百九十八條 ハ公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者モ亦罰ヲ受クベキコトヲ定

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス  
 第百九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得  
 第二十六章 殺人ノ罪  
 第百九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス  
 第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス  
 第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得  
 第二百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑托

メタリ  
殺人ノ罪 トハ云フマデモナク人  
殺シノ罪ナリ  
第九十九條 ハ人ヲ殺シタル者  
ハ死刑又ハ無期徒刑若クハ三年以  
上ノ懲役ニ處分セラル、ヲ定ム  
第二百條 ハ自己又ハ配偶者ノ尊  
屬親ヲ殺シタル罰ナリ  
〔尊屬親〕父母、祖父祖母、會祖  
父、會祖母等  
第二百一條 ハ前二條ノ罪ヲ犯サ  
ントシテ其準備ヲ爲シタル者ノ罰  
シ方ヲ定ム  
第二百二條 人ヲ峻カシ若クハ幫  
助ヲナシテ自殺セシメ又ハ其囑托  
ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺  
シタル者ヲ罰スル事ヲ規定セリ、

ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ  
懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三條 第九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第廿七章 傷害ノ罪

第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓

以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期

懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年

以上ノ懲役ニ處ス

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ

自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若

クハ科料ニ處ス

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷

第二百三條 右百九十九、二百及  
二百二條ノ未遂罪ハ罰セラル  
傷害ノ罪 人ニ傷ヲ負ハセタルモ  
ノ、罪  
第二百四條 ハ人ノ身體ニ傷ヲ負  
スレバ如何ナル罰ヲ受クヤヲ定ム  
第二百五條 右ノ罪ヲ犯シ人ヲ死  
ニ致シタル者ノ罰シ方ヲ定ム  
第二百六條 ハ右二條ノ罪ニ加  
勢シタル者ハ手下サハルモ罰セ  
ラルベキコトノ規定ナリ  
第二百七條 ハ二人以上ノ人ガ暴  
行ヲ加ヘ人ヲ傷ツケ又ハ殺シタル  
トキニ誰ガ怪我ヲサセタルヤ分ラ  
ザルトキハ如何ニ處分スヘキヤヲ  
定ム  
第二百八條 他人ニ暴行ヲ加ヘタ

害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルニ

ト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖トモ共犯ノ例ニ依ル

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年

以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第廿八章 過失傷害ノ罪

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ

科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處

ス

第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル

者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九章 墮胎ノ罪

ルモ傷害スルニ至ラザルトキハ本  
 條ニヨリテ罰ラレ  
 過失傷害ノ罪 過失ニテ人ヲ傷ケ  
 又ハ殺シタル者ノ罪  
 第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害  
 シタルトキハ本條ニヨリ罰セラレ  
 第二百十條 因リテ死ニ致シタル  
 モノノ罰ハ本條ノ規定スル所ナリ  
 第二百十一條 業務上必要ナル注  
 意ヲ怠リタル爲メ人ヲ死傷ニ致シ  
 タル者ノ罰ハ本條ニヨル  
 墮胎ノ罪 胎内ノ子ヲ墮シ又ハ墮  
 サシメタル者ノ罪  
 第二百十二條 ハ懷胎ノ婦女ガ藥  
 物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ニテ墮胎  
 シタルトキノ罰シ方ニシテ  
 第二百十三條 ハ婦女ノ囑託ヲ受

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シ  
 タルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル  
 者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以  
 上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條 醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又  
 ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ  
 處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ  
 處ス

第二百十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得シテ墮胎セシ  
 メタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
 前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害  
 ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二十章 遺棄ノ罪

第二百十七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄  
 シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十八條 老幼、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル  
 者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サザルトキハ三月以  
 上五年以下ノ懲役ニ處ス  
 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年  
 以下ノ懲役ニ處ス

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害  
 ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以  
 下ノ懲役ニ處ス  
 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年

ケ又ハ承諾ヲ得テ墮胎セシメ又ハ  
 婦女ヲ死傷セシメタル者ノ罰方也  
 第二百十四條 ハ醫師、産婆、藥  
 劑師又ハ藥種商ガ右ニ掲ゲタル罪  
 ヲ犯シタルトキノ罰シ方ヲ定ム  
 第二百十五條 ハ婦女ノ囑託ナク  
 又ハ其承諾ナキニ右等ノ罪ヲナシ  
 タル者及ビ未遂ヲ罰スル規定ナリ  
 第二百十六條 ハ前條ノ罪ヲ犯シ  
 爲ニ婦女ヲ死傷シタルトキノ罰也  
 遺棄ノ罪 保護スベキ者ヲ棄テ又  
 ハ世話ヲナサル罪  
 第二百十七條 老人、子兒、不具  
 又ハ病氣ノ爲メ扶助ヲナスベキ者ヲ  
 棄テタル者ハ本條ノ罰ヲ受ク  
 第二百十八條 右ニ掲ゲタル者ヲ  
 保護セネバナラヌ義務アル者ガ打

第二百十七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄  
 シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十八條 老幼、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル  
 者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サザルトキハ三月以  
 上五年以下ノ懲役ニ處ス  
 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年  
 以下ノ懲役ニ處ス

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害  
 ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以  
 下ノ懲役ニ處ス  
 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年



棄テ、構ハズ又ハ其生命ヲ緊クニ必要ナル保護ヲナザルモノヲ罰スル規定ナリ  
第二百十九條 右二百十七、二百十八條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷セシメタル者ハ本條ニヨリ罰セラル  
逮捕及監禁ノ罪 理由モナキニ人ヲ捕ヘ又ハ監禁ムル罪  
第二百二十條 正當ノ理由ナク人ヲ捕ヘ又ハ監禁メタル者ハ本條ノ罰ヲ受ケ  
第二百廿一條 爲ニ死傷セシメタル者ハ本條ニヨリテ罰セラル  
脅迫ノ罪 人ヲ脅カシ又ハ亂暴ヲスル罪  
第二百廿二條 人ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加

以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十二章 脅迫ノ罪

第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ  
第二百二十三條 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ

フベキコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ本條ニヨリテ罰セラル  
第二百廿三條 右ノ事ヲ爲シ又ハ暴行ヲ用キ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ若クハ行フコトヲ得ベキ權利ノ妨害ヲナシタル者ハ本條ニヨリテ罰セラル  
略取及誘拐ノ罪 暴行ヲ用キテ人ヲ連出シ又ハ欺シテ連出ス罪  
第二百廿四條 ハ未青年者ヲ無理ニ又ハ欺シテ連出シタル者ノ罰シ方ナリ  
〔未成年者〕滿二十歳ニナラヌ者  
第二百廿五條 ハ錢儲ケ、狎褻又ハ結婚ノ目的ヲ人ヲ奪ヒ出シ又ハ偽シテ連出シタル者ノ罰ヲ定ム  
第二百廿五條 外國ニ送り出ス目

妨害シタル者亦同シ  
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十五條 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被招取者若クハ被買者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

的ニテ人ヲ奪ヒ又ハ偽シテ進出シ  
若クハ外國ニ移送ノ目的テ人ヲ賣  
買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ  
外國ニ送出シタル者ハ如何ナル罰  
ヲ受ルヤハ本條ノ定ムル所ナリ  
第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シ  
タル者ノ幫助ヲナス目的ヲ以テ被  
拐取者、賣被者ヲ收受、藏匿ナド  
シタル者ハ本條ノ罰ヲ受ク  
第二百二十八條 ハ以上ノ罪ハ仕途  
ゲザルモ罰セラル

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ  
六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ  
以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ  
除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限り告訴ヲ待テ之  
ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ  
無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ効ナシ

第二十四章

名譽ニ對スル罪

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實  
ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金  
ニ處ス  
死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ起固ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス  
第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘

規定ス  
名譽ニ對スル罪 人ノ名譽ヲ傷ケ  
ル罪  
第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ  
テ人ノ名譽ヲ毀損セタル者ハ其事  
實ノ有無ニ拘ラズ本條ニ依リテ罰  
セラルベキモノニシテ  
第二百卅一條 事實ヲ摘示サザル  
モ公然人ヲ侮辱シメタル者ハ本條  
ノ罰ヲ受クルナリ  
第二百卅二條 ハ右二條ノ罰ハ  
告訴ヲ待テ論ズベキコトヲ定ム  
信用及ビ業務ニ關スル罪 人ノ信  
用ヲ毀ケ又ハ業務ヲ妨害スル罪  
第二百卅三條 虛偽ノ風説ヲ流布  
又ハ偽計ヲ以テ人ノ信用ヲ毀損  
又ハ其業務ヲ妨害シタル者ハ本條

留又ハ科料ニ處ス  
第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス  
第二十五章 信用及ビ業務ニ對スル罪  
第二百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀  
損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下  
ノ罰金ニ處ス  
第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ  
同シ

第二十六章

竊盜及ヒ強盜ノ罪

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年  
以下ノ懲役ニ處ス  
第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ  
強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス  
前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セ

ニヨリテ罰セラレ  
等二百卅四條 威力ヲ以テ人ノ業  
務ノ邪魔ヲナシタル者ハ本條ノ罰  
ヲ受ク  
窃盜及ビ強盜ノ罪 人ヲ脅ヤカシ  
テ無理ニ物ヲ盜ムヲ強盜ト云ヒ窃  
ニ盜ムヲ強盜ト云フコレ等ノ罪ヲ  
定メタルナリ  
第二百卅五條 窃ニ他人ノ金錢ヤ  
物品ヲ盜ム者ハ窃盜シ本條ニ依リ  
テ罰シ  
第二百卅六條 暴行又ハ脅迫ヲ以  
テ他人ノ金錢ヤ物品ヲ無理ニ盜ル  
ヲ強盜トシテ本條ニヨリ罰ス  
第二百卅七條 ハ強盜ノ目的ニテ  
其準備ヲナシタル者ヲ罰スルコト  
ヲ定ム

メタル者亦同シ  
第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下  
ノ懲役ニ處ス  
第二百三十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒ギ又ハ逮捕ヲ免レ若ク  
ハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ  
論ス  
第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ  
以テ論ス  
第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ  
處ス  
死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス  
第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ  
懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處  
ス

第二百卅八條 盜ミ物ノ取還ヲ拒  
ギ又ハ捕ハレルヲ拒グ爲メ暴行又  
ハ脅迫ヲナシタルモノハ強盜ト同  
ク罰セラルコトノ規定ナリ  
第二百卅九條 麻酔劑ヲ嗅ストカ  
其他ノ方法ニテ人ヲ昏醉ニサセテ  
物品又ハ金錢ヲ盜ミタル者ハ強盜  
トシテ罰ヲ受ク  
第二百四十條 強盜ガ人ヲ殺シ又  
ハ傷ヲ負セタルトキノ罰ヲ掲ク  
第二百四十一條 強盜ガ婦女ヲ強  
姦シタルトキハ本條ニ依リ罰セラ  
ル  
第二百四十二條 ハ自分ノ物ト  
雖ドモ他人ガ占有ツテ居又ハ公務  
所ノ命令ニ因リテ他人ノ看守モセ  
ルノヲ盜ミタルトキハ前トシ同ク

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ  
命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人  
ノ財物ト看做ス  
第二百四十三條 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八  
條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第二百四十四條 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ  
於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除  
シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス  
親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス  
第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス  
第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪  
第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲  
役ニ處ス  
前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セ

強盜、窃盜ニテ罰セラルヲ揭グ  
 第二百四十三條 ハ右掲ゲタ 窃盜、強盜ノ罪ハ二百三十七條ノ外ハ未遂ニテモ罰スルコトヲ定メタル  
 第二百四十四條 ハ親族又ハ家族ノ物ヲ盜ミタルトキハ其罪ヲ免除シ、又場合ニヨリテハ告訴アリタルトキハ罰スルコトヲ定ム  
 【直系血族】父、母、祖父、祖母、曾祖父、曾祖母、子、孫、曾孫、孫  
 【配偶者】夫婦ノ關係アルモノ  
 【同居ノ親族】一家ニ居ル親類  
 第二百四十五條 ハ電氣モ財物トシテ看做ス規定ナリ  
 同ジク看做ス規定ナリ  
 話欺及恐喝ノ罪人ヲ欺シ又ハ威サ

シメタル者亦同シ  
 第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス  
 第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス  
 前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ  
 第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
 第二百五十一條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及

シテ金銀物品ヲ取ル罪  
 第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙リ取り又ハ財産上ノ不正ナル利益ヲ得若クハ他人ニ得セシメタル者ノ罰ヲ定ム  
 第二百四十七條 ハ他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ニテ其任務ニ背キ本人ニ損害ヲカケタルトキノ罰ヲ揭ク  
 第二百四十八條 満二十歳ニナラヌ者、智恵分別ノ足ラヌ者又ハ心神ノ耗弱テ居ルニ附込ミテ其財物ヲ交附シメ又ハ不法ノ利益ヲ得人ニ得セシメナドシタル者ハ本條ニヨリテ罰セラルハナリ  
 第二百五十條 以上ノ罪ハ未遂ナ

第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス  
 第三十八章 横領ノ罪  
 第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス  
 自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ  
 第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
 第二百五十四條 遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス  
 第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス  
 第二十九章 贓物ニ關スル罪  
 第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

リト雖モ罰セラル  
 第二百五十一條 説明略ス  
 横領ノ罪 他人ノ物ヲ横取セル罪  
 第二百五十二條 自己ノ占有レル  
 他人ノ物又ハ自己ノ物ナリトモ公  
 務ヨリ保管ヲ命ゼラレタル物ヲ横  
 領シタル者ハ本條ニ依リテ罰セラ  
 ル  
 第二百五十三條 ハ業務上自己ノ  
 占有セル他人ノ物ヲ横領セル罪ノ  
 罰ヲカ、ゲタリ  
 第二百五十四條 ハ遺失物、漂流  
 物品其他ノ手ヲ離レタ人ノ物ヲ  
 横領セル罰ヲ定ム  
 第二百五十五條 説明ヲ略ス  
 贓物ニ關スル罪 盜物ニ付テノ罪  
 第二百五十六條 盜物ヲ受取、運

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役  
 及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二百五十七條 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等  
 ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル時ハ其刑ヲ免除ス  
 親族又ハ家族ニ非サル共ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス  
 第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪  
 第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル罪ハ三月以  
 上七年以下ノ懲役ニ處ス  
 第二百五十九條 權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ  
 五年以下ノ懲役ニ處ス  
 第二百六十條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタルハ五年以下ノ  
 懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ  
 從テ處罰ス  
 第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタ  
 ル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス  
 第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸  
 貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル  
 第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若ク  
 ハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス  
 第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ  
 告訴ヲ待テ之ヲ論ス

搬寄藏又ハ牙保ヲナシタル者  
 ハ本條ニ依リテ罰セラル、ナリ  
 第二百五十七條 ハ二百五十六條  
 ノ罪ノ特ニ免除サル、場合ヲ揭グ  
 毀棄及ヒ隱匿ノ罪 他人ノ物ヲ毀  
 シ棄テ又ハ隠ス罪  
 第二百五十八條 ハ公務所ノ用ニ  
 供フ文書ヲ毀棄等セル罰ヲ規定シ  
 第二百五十九條 ハ權利義務ニ關  
 スル他人ノ文書ヲ毀棄セル罰ヲ定  
 メタリ  
 第二百六十條 ハ他人ノ所有ナル  
 建物又ハ艦船ヲ壞シ若クハコレガ  
 爲人ヲ死傷セシメタル罰ニシテ  
 第二百六十一條 ハ右三條ニ掲  
 ゲタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シ  
 タル者ノ罰ナリ

ル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス  
 第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸  
 貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル  
 第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若ク  
 ハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス  
 第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ  
 告訴ヲ待テ之ヲ論ス  
 第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ又ハ擔保ニ入レ又ハ貸  
 貸シタル者ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ右三條ニ罰セラル、ナリ  
 第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタルモノハ如何ナル罰ヲ受ク  
 ルヤヲ定ム  
 第二百六十四條 右ニ掲ゲタル内二百五十九、二百六十一、二百六  
 十三條ノ犯罪ハ訴ガナクハ罰セザルナリ

傍新刑法註釋終

新警察犯處罰令

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日以下ノ拘留ニ處ス

十日以下ノ拘留ニ處ス

- 一 故ナク人ノ居住若ハ看守セザル邸宅建造物及船舶内ニ潜伏シタル者
二 密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒介若ハ容止ヲ爲シタル者
三 一定ノ住所又ハ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者
四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日以下又ハ三十圓以下ノ科料ニ處ス

- 一 合力喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者
二 乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

三 濫ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品入場券等ヲ配付シタル者

- 四 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタル者
五 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
六 新聞紙雜誌其他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者
七 新聞紙雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者
八 申込ナキ新聞紙雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者
九 祭事祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
十 自己占有場所内ニ老幼不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍死胎アルヲ知リテ速ニ警察官

吏ニ申告セザル者

- 前項ノ死屍死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者
十一 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シ横臥シ又ハ泥酔シテ徘徊シタル者
十二 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルベキ行爲ヲ爲シタル者
十三 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者
十四 劇場寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者
十五 難者ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セズ混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者
十六 人ヲ誑惑セシムベキ流言浮説又ハ虛報ヲ爲シタル者

十七 濫ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者

- 十八 病者ニ對シ禁厭祈禱符呪等ヲ爲シ又ハ神符神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ゲタル者
十九 濫ニ催眠術ヲ施シタル者
二十 官職位記勳爵學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾徽章ヲ借用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者
二十一 官公署ニ對シ不實ノ申立ヲ無シ又ハ其義務アル者ニシテ故ナク陳述ヲ肯セザル者
二十二 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ゲ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者
二十三 河川溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨ゲベキ行爲ヲ爲シタル者
二十四 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者
二十五 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者

二十六 官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚漬シ若ハ撤去シタル者

二十七 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯ゼズシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其場所ヨリ退去セズ又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ラズ傍觀シテ之ニ應ゼザル者

二十八 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺道路公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者

二十九 他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者

三十 使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其自由ヲ妨ゲ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者

三十一 濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者

三十二 他人ノ身體物件又ハ之ニ害ヲ及ボスベキ場所ニ對シ物件ヲ抛擲シ又ハ放射シタル者

三 街路ニ於テ尿尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

四 濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スベキ物ヲ玩ビタル者

五 家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者

六 石灰其ノ他自然發火ノ虞アル者ノ取扱ヲ忽ニシタル者

七 開業ノ醫師產婆故ナク病者又ハ妊婦產婦ノ招ギニ應ゼザル者

八 故ナク官公署ノ召喚ニ應ゼザル者

九 炮煮洗滌剝皮等ヲ要セズ其ノ儘食用ニ供スベキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケズ店頭ニ陳列シタル者

十 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄抛シ又ハ之レガ取除ノ義務ヲ怠リタル者

十一 監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者

十二 濫ニ犬其他ノ獸類ヲ吠シ又ハ驚逸セシメタル者

三十三 神祠佛堂禮拜所墓所碑表形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚漬シタル者

三十四 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者

三十五 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混ジテ不正ノ利ヲ圖リタル者

三十六 不熟ノ果物腐敗ノ肉類其他健康ヲ害スベキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者

三十七 濫ニ他人ノ繫ギタル舟筏牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二

十圓以下ノ科料ニ處ス

一 許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レガ保存ヲ爲シタル者

二 公衆ノ目ニ觸ルベキ場所ニ於テ袒褻裸體シ又ハ露部股ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者

十三 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ逸走セシメタル者

十四 公衆ノ目ニ觸ルベキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者

十五 濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚漬シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札招牌賣家札其ノ他標榜ノ類ヲ汚漬シ若ハ撤去シタル者

十六 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル所ニ舟筏ヲ繫ギタル者

十七 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬諸車ヲ牽入レタル者

第四條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附則 本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

754

明治四十一年十月二十日印刷  
明治四十一年十月九日發行

定價金參拾錢

東京市日本橋區馬喰町四丁目廿一番地

編輯兼發行人 酒井久三郎

東京市神田區松下町十番地

印刷人 橫田五十吉

東京市神田區松下町十番地

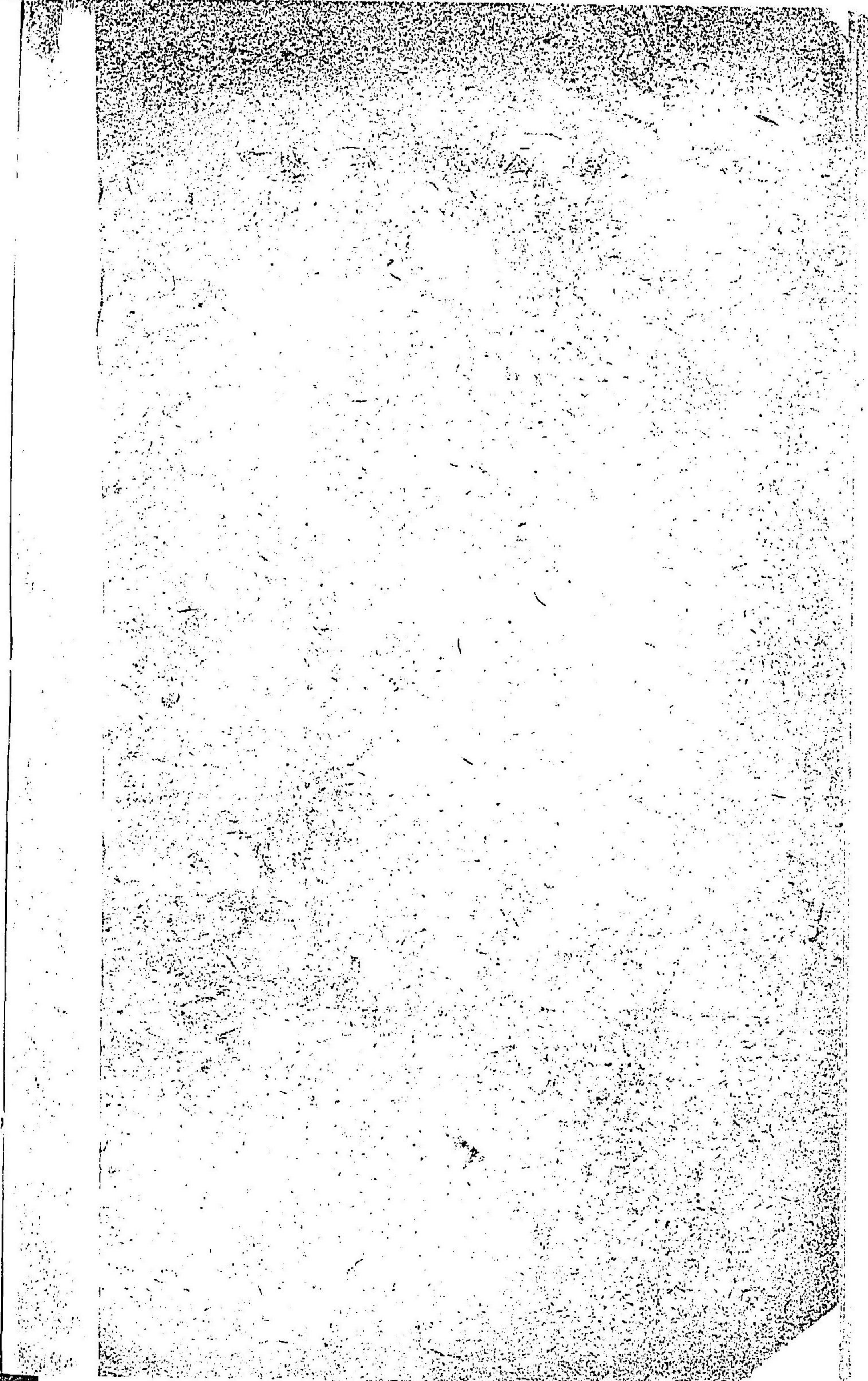
印刷所 橫田活版所

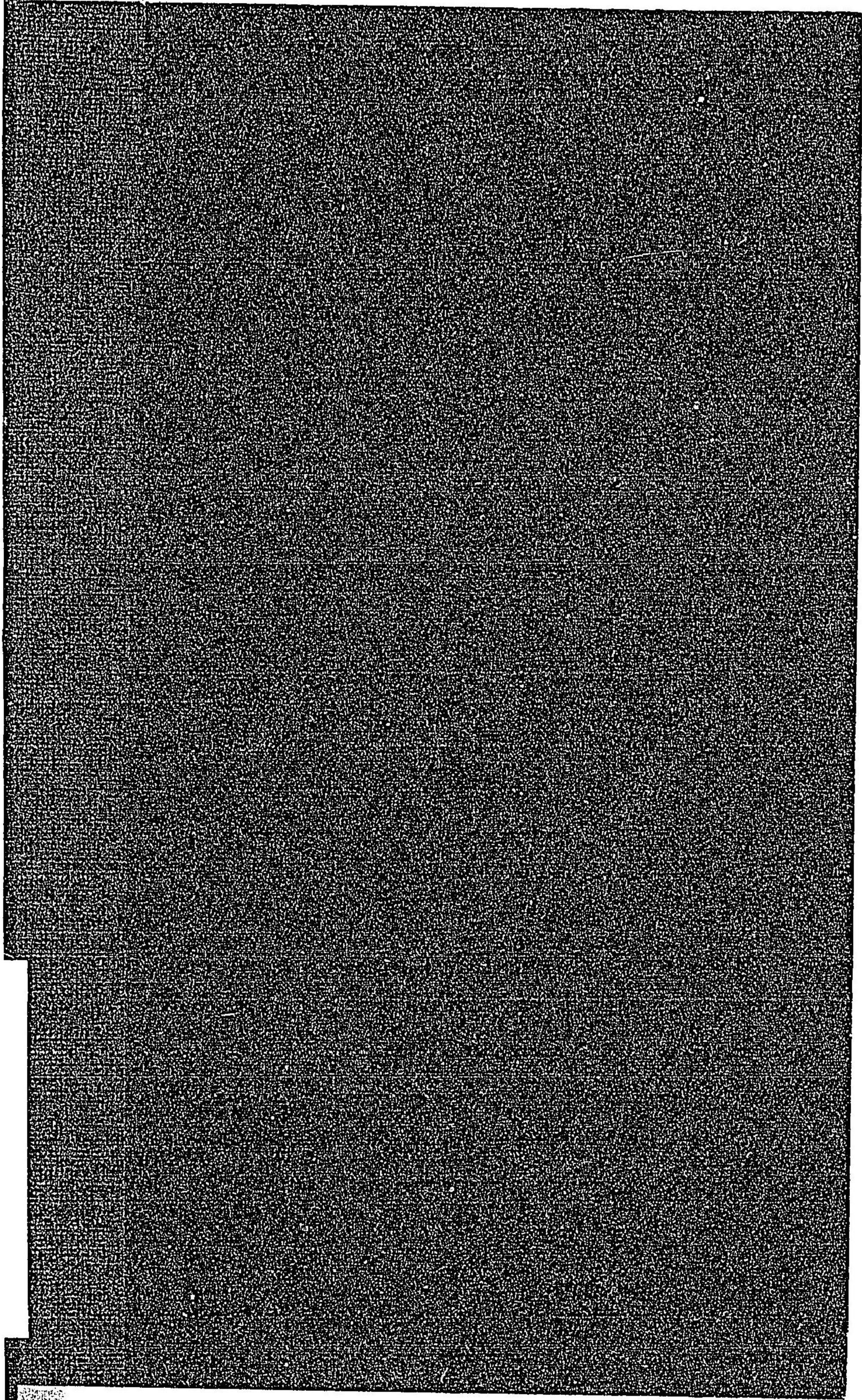
東京市日本橋區馬喰町四丁目廿一番地

發行所

淡海堂書店







特45

754

新刑法註釈

国立国会図書館

036057-000-6

特45-754

新刑法註釈 (傍訓早わかり)

法学会  
行政法研究会 / 編

M41

BBP-0685

